

#その発信が世界を変える

東京をつなげよう

国際政策室

SDGsを通じて、豊かで活力ある未来を創る



公益社団法人 東京青年会議所
国際政策室 担当: ●●●● TEL: 0000000000

SDGビジネス推進アカデミー

東京青年会議所では本年、中小企業のSDGs推進に向けた取り組みを行って参りました。当青年会議所メンバーの多くが中小企業経営者であり、まずは私たちがSDGsをしっかりと理解し、本業と社会貢献とを結びつけることにより、SDGsの達成に貢献したいと考えております。また、本アカデミーを軸として、中小企業向けのSDGs推進マニュアルを作成しました。多くの中小企業の皆様のSDGsを通じた本業の更なる発展に貢献したいと考えております。

室長 新井一功



1 SDGsの付加価値と中小企業の経営にとっての意味を理解する

経営戦略へのSDGs内部化促進

- 逆算思考(ムーンショット) ● イノベーション(論理的逆算思考) ● リンケージ(レバレッジポイント理論)

企業価値の向上

中小企業が大企業よりもSDGsに取り組みやすい理由

中小企業が持つ
イノベーション力

地域社会への
貢献力

人材の
育成力

中小企業がSDGsへ取り組むにあたり、「社会的使命の不在」により、取り組みが阻まれています。社会的使命を定義することで事業も計画も体制もそこから演繹できます。だからこそ、中小企業はSDGsに取り組むべきであると考えます。

2 自社固有の社会的使命を定義する

理念の不在がSDGs浸透の障壁となっている

- 理念とは「自社の社会的存在意義・使命」。
- 日本の中小企業の47%がこの理念を持たない。
- 理念が会社になく＝使命感が湧かないことがSDGsが浸透しない最も大きな壁になっている。

理念があればSDGsは活きる

- SDGsは自社の理念を明確にするための道具にも使える。
- 自社の理念をSDGsにあてはめることでどのゴールに向かっているのかが定義できる。
- 理念の意味が分かれば自社が社会に与える影響が見える化でき使命感が出る。
- 明確なゴール・使命が定義できれば社員に浸透しやすく、価値観、経営判断、採用判断の基準値になる。

自社の取り組み

副室長 金山春樹

会社理念: 中小企業のオフィス環境改善を通じて社会に貢献する

オフィス環境改善とは何か、社会とはどこかなど、漠然とした表現では社員に伝わりません。そこで、SDGsのゴールに照らし合わせてみると、9.cのゴールに近いということが分かりました。日本が実はインフラ後進国であること、特にセキュリティ面での情報不足が深刻であるという問題はまだ腹落ちしない問題であり、この問題を解決し、大田区における安心安全なインターネット・アクセスの提供をするという存在意義を見出すことにより、新しいプロジェクトを立ち上げるまでに至りました。



理念が浸透した会社は中小企業だけが持つ「強み」を上手に活用できるようになり利益を生む。

3 使命に照らして自社の現状を検証する

JCメンバー5名による企業理念と現状の発表。そこから以下の点に関して検証

- 企業理念と経営者の想いは、従業員と共有できているか。ギャップはないか。
- 既存の事業内容と理念は合致しているか。
- 5年後の事業計画と理念は合致しているか。
- 企業としての経営軸を作り、SDGsのどの部分に取り組んでいくかを考え(エン트리ポイント)、中期経営計画に落とし込んでいく。



自社の取り組み

副室長 栗原茂行

会社理念: 旅行を通じて人を元気にし、組織を活性化させる。

旅介理念: 全ての高齢者が旅行を楽しめる社会を創り上げる。

勉強会を受講し、SDGsにどう取り組んでいくのか考え弊社では、ターゲット11.2「2030年までに、脆弱な立場にある人々、女性、子ども、障害者、および高齢者のニーズに特に配慮し、公共交通機関の拡大などを通じた交通の安全性改善により、すべての人々に、安全かつ安価で容易に利用できる、持続可能な輸送システムへのアクセスを提供する。」に取組み、高齢者(要介護者)が外出(旅行)に行きやすい社会創りをして行こうと考えております。



4 SDGsに照らして自社固有の強みを特定する

SDGsを自社事業に取り込む最初のステップは、
自社事業とSDGsの4パターンのリンケージ(紐づけ)をすること。

- 自社事業の強みのSDGs目標をレバレッジポイントとする方法。
- 本業価値のSDGs目標達成のため、取り組めるSDGs目標を土台とする方法。
- 様々な主体とのパートナーシップによりSDGs目標の正の循環を創出する方法。
- 抽象的な企業理念は個別のSDGs目標に落とし込みづらいので、前文などを踏まえて戦略構築する方法。

リンケージはSDGsに取り組む最初の一步。

- 多くの企業ではSDGsを事業戦略へ落とし込めていない。
- リンケージを行ったら、より大きなゴールを設定し目標の達成に必要なイノベーションを定義する。

企業にとってはSDGsへの取り組みをPRすることが重要。

自社の取り組み

副室長 奥 優

会社理念: 「Service(奉仕)」「Speed(迅速)」「Safety(安全・確実)」「Study(勤勉)」「Saving(節約)」の『5Spirit』の精神で納税者のニーズにこたえること

将来のビジョン: 顧客の夢をかなえるお手伝いを

AIによってなくなるといわれている税理士。しかし本当に税理士という仕事はなくなるのでしょうか。税理士は人と人を繋ぐ創造的な価値を提供することができる仕事です。つまり自社の強みは「人」です。この自社事業の強みは目標17「持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する」にリンケージすることが出来ると考えています。

